

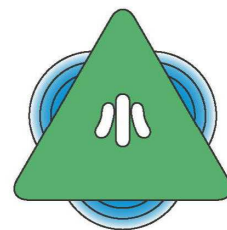
鳥海の子

～明るく・かしこく・たくましく～

令和5年度 学校報 No.18 文責 校長

コミュニティ・スクールだより

由利本荘市立鳥海小学校 令和5年 9月 8日



明日9月9日は重陽の節句です。菊の節句とも呼ばれ菊を愛でて邪気を払い、家族の無病息災、不老長寿を願う節句です。秋の気配も少しずつ近づいているのでしょうか・・・

第10回飛鳥祭の成功に向けて

9月1日（金）に、小中合同飛鳥祭集会を行い、今年の飛鳥祭について児童生徒で思いを発表し合いました。児童会企画委員が各学年から提案された意見や使いたい言葉を基に決めた小学校テーマは「十人十色 きらりの花を さかせよう」です。一人一人が違うという意味で選んだ言葉「十人十色」。「鳥海小学校では今年、キバナコスモスやベゴニア、ひまわりなど、たくさんの愛の花がさいている。だから自分たちも一人一人がきらりの花を咲かせたい。」とテーマに込めた願いを発表しました。一人一人を大切にしているということ、体験活動・植栽活動を通して自分磨きをしている様子が伝わるテーマになりました。学年発表に向けた取組も始まっています。9月30日（土）、どうぞよろしくお願いいたします。



満喫!学ぶんチャレンジプログラムツアー!

9月2日（金）に3年生が由利高原鉄道矢鳥駅操車場、おばこ号で本荘駅へ、カダーレ（プラネタリウム、市中央図書館）、おばこ号乗車、まいーれと市内巡りの学習をしました。酷暑でも安全のために作業する操車場内のお仕事に感動したり、プラネタリウムでは「もっと大きく見せてください。」「〇〇座を見せてください。」と説明を聞いてもっと知りたいことを依頼したり、図書館では自分が読みたい本を問い合わせたり、まいーれで鳥海のよさをつぶやいたり、どの見学先でも3年生の元気な学びが見られました。



自然の中で協力!前進!~自然教室~

5年生は9月5日から一泊二日の自然教室でたくましく成長してきました。しおりで次の活動を見直し、お互いカバーし合って活動する様子は、普段の学校生活を大きく上回る判断、行動、豊かな表情でした。心に残ったことを聞くと、ナイトハイク、プロジェクトアドベンチャー、入浴・・・など様々な反応で一人一人が自分の持ち味を出しながら楽しんできたことを感じました。子どもたちの活動は「岩城少年自然の家」のFacebookでも紹介されているそうです。



「あったかことば」を広げよう~自分たちで見つめ直したよ~

学校内をまわっていたところ、2年生が学級活動で「ちくちくことばとあったかことば」と言葉づかいの学習をしていました。たった一言で相手を勇気付け元気にすることができ、たった一言で相手を傷付け嫌な気持ちにしてしまう言葉づかい。2年生のみんなは言葉の違いだけでなく、言い方で相手が傷付くことや「ちくちくことば」は考えるだけでもイヤになってくることを話題にしていたようです。「ちくちくことば」を減らし「あったかことば」を増やしていくよう集めた言葉を教室に張り出していました。「あったかことば」が鳥海小学校でどんどん広がりますように。



令和5年度全国学力・学習状況調査の結果

4月18日に実施した本調査ですが、昨日、6年生が個票を持ち帰りました。全国学力・学習状況調査は義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的として小学校6年生、中学校3年生の児童生徒を対象に実施されています。小学校では国語と算数の2教科と質問紙アンケートで行いました。鳥海小学校の結果分析をお知らせします。

令和5年度全国学力・学習状況調査結果分析①

1 平均正答の状況

(国語)

	平均正答数	平均正答率 (%)
鳥海小	9.1/14	65
秋田県(公立)	10.0/14	72
全国(公立)	9.4/14	67.2

(算数)

	平均正答数	平均正答率 (%)
鳥海小	9.8/16	61
秋田県(公立)	10.4/16	65
全国(公立)	10.0/16	62.5

2 鳥海小学校の結果概要

秋田県の平均正答率と比べると国語は7ポイント、算数は4ポイント下回る状況です。実施人数が12名のため、平均だけではなく12名なりの散らばり、共通点を分析してみました。

(国語)

- 正答率が全国を上回る問題は6問でしたが、そのうち5問の問題形式が選択式(9問)でした。これは、問いに対して直感ではなく、言葉をもとに題意を解釈してから答えようとする学習習慣の表れと捉えます。
- 文章中の言葉を推敲する形式で漢字が出題されました。「いがい(意外)」「きかん(期間)」など同音異義語の書き取り、「くらべて(比べて)」の送り仮名を選択する問題で、得意不得意の違いが表れました。普段からどの言葉を使うとよいか、送り仮名は正しいかなど見直す一時間で全員のスキルアップを促したいです。
- 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫するかどうかを見る「【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く」、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかを見る「資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに自分ができそうなことをまとめて書く」についてほとんどの児童が誤答でした。いずれも記述問題です。「書く」学習では、明確な目的→目的に応じた条件設定→条件に応じた情報収集・整理→文章に表す工夫という過程で学習します。だから、記述問題(書く)では、目的に応じて提示されている複数の条件の全てをクリアすることが求められます。書くことの条件として、カードの箇条書きを一文に表すこと、複数の資料の内容を簡潔にまとめること、本の一部、メモカード、パンフレットの内容等の異なるテキストを見比べることなどの経験を増やしていきたいと考えます。

(算数)

- 選択式の問題5問のうち4問で全国正答率を上回っています。国語と同様に分かることを整理して問題解決する学習習慣が表れたと捉えています。「伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求める」「テープをおったり切ったりしてできた四角形の名前を書く(図が添付)」など表や図を用いる問題で正答率が9割を上回っています。
- 全国正答率5割台の「複数の棒グラフを組み合わせて読み、見いだした違いをについて書く(モデルになる記述例が提示されている)」、「椅子4脚の重さが7kgであることを基に48脚の重さの求め方と答えを書く」では半数以上が正答でした。解答類型(誤答を含めた主な解答の型)以外の解答が半数以上の児童に見られるほど、問題解決に粘り強く取り組んでいたと捉えられます。
- 「切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く」問題(全国正答率24.9%)ではほとんどの児童が誤答でした。三角形の作り方の説明(イラストと手順)を受けて、二等辺三角形の作り方の説明(イラスト)があり、次に問題に関する会話文が示され、「切って開いた三角形を正三角形にするには、Aの角の大きさを何度すればよいですか。」と問い掛けられる問題構成です。必要な情報として何に着目するか(正三角形の角度は60°、切り分けるときにもとの角の半分)が課題でした。情報量が多い状況でも問いに応じて必要な情報を全て見いだす力を付けたいと考えます。